第６講　経済成長と景気

1　経済成長

①経済成長

経済活動の規模が拡大すること。その原因は，資本の蓄積・技術革新・教育による労働者の能力向上・政権の安定など，多岐にわたる。

※日本は 1955 ～ 73 年に，年 10％程(ほど)の成長を続ける**高度成長**期を経験し，その後，**安定成長**期に入った。

※しかし，1974・98・99 年，2008・09・11 年には**マイナス成長**を経験している。

②経済成長率→名目(めいもく)成長率と実質成長率

一定期間における経済成長の速度。通常は国内総生産〔GDP〕の対前年増加率で測定する。しかし，物価が上昇すれば数値が伸びてしまうので，物価変動分を修正した**実質国内総生産〔実質 GDP〕**が用いられており，財・サービスの価格変動を示す指標である **GDP デフレーター**〔物価指数〕を使い算出される。

※インフレ傾向下では名目 GDP が実質 GDP より高く，デフレ傾向下では実質 GDP が名目 GDP より高くなることが多い。

※国民**１人当たり GDP** も重要な指標として算出されている。

〈***Note***〉

２　景気

①景気循環〔景気変動〕

景気の山→谷→山→谷を繰り返す。資本主義下においては，無計画経済だからこそ見込み生産が行われ，社会全体の需要と供給のバランスに不均衡が生じる。

A　**好況**〔好景気〕

B　**後退**

急激な景気後退を**恐慌**という。

C　**不況**〔不景気〕

D　**回復**

②景気循環の４つの波

A　**キチンの波**

約 **40 カ月**（３～４年）周期の短期波動。**在庫投資の変動**〔**在庫の増減**〕による。

※大口の仕入れや，在庫処分の販売など。

B　**ジュグラーの波**→主循環

約７～ **10 年**周期の中期波動。**設備投資の変動**による。

※設備投資は，まずは需要を創出する。

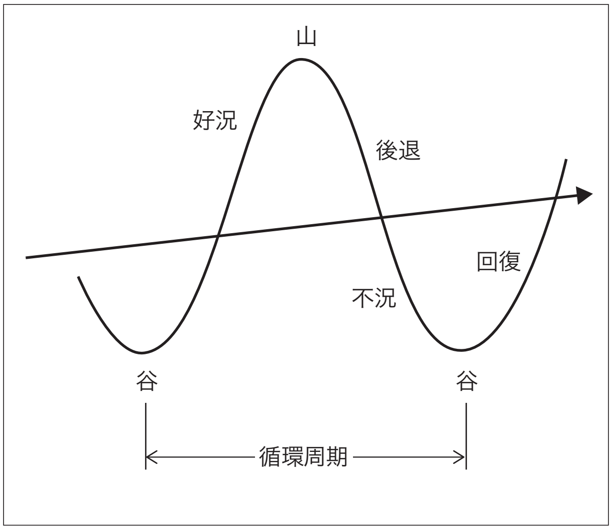
C　**クズネッツの波**

約 15 ～ 25 年周期の中長期波動。**建設投資の変動**による。

D　**コンドラチェフの波**

約 50 ～ 60 年周期の長期波動。**技術革新〔イノベーション〕**による。

※近年は技術革新のサイクルが早くなっており，実態とかけ離れている。



③景気政策

財政政策・金融政策や，場合によっては為替政策まで同時並行で組み合わせる**ポリシー＝ミックス**も有効。また，金融政策においてはインフレ率に一定の幅の目標を設定し，目標圏を守ろうとするインフレ＝ターゲット政策をとる国も多い。

※２％目標を設定したアベノミクスは，インフレ＝ターゲットの好例。

A　**好況時→**デフレ政策〔景気抑制策〕

あ　財政政策

公共投資の抑制，増税などによる**需要抑制**策。

い　金融政策

高金利への誘導，マネーストックの抑制。

B　**不況時→**インフレ政策〔景気刺激策〕

あ　財政政策

公共投資の増大，減税，福祉予算の拡大などによる**需要拡大**策。

い　金融政策

低金利への誘導，マネーストックの増大。

３　物価

①物価

一定範囲での多数の商品の価格を，ある基準で総合的・平均的に表したもの。

A　**消費者物価**と**企業物価**

B　**消費者物価指数**と**企業物価指数**

基準年の物価水準を 100 として，比較年の物価水準を指数で表したもの。

②インフレーション〔インフレ〕

物価水準や賃金が持続的に上昇する現象。

A　原因による分類

あ　**ディマンド＝プル＝インフレ〔需要インフレ〕**

総需要が総供給を上回り発生。需要側に原因がある。消費インフレ・財政インフレ・信用インフレ・輸出インフレなど。

い　**コスト＝プッシュ＝インフレ〔費用インフレ〕**

費用の増加が価格に転嫁され発生。供給側に原因がある。賃金インフレ・輸入インフレなど。

う　構造的インフレ

現代経済の構造的特徴・複合的要因により発生。生産性格差インフレなど。

B　程度による分類

あ　クリーピング＝インフレ

忍び寄る物価上昇。管理価格による価格の下方硬直性などが原因。

い　ギャロッピング＝インフレ

駆け足の物価上昇。石油危機や大規模自然災害後などは典型例。

う　**ハイパー＝インフレ**

超越した，過度の物価上昇。物価高騰（こうとう）と通貨価値の下落が急激かつ極度に起こる現象。第一次世界大戦敗戦後のドイツや，発展途上国などで起きたものが有名。

③デフレーション〔デフレ〕

物価水準や賃金が持続的に下落する現象。物価の下落が継続して起こり，不景気を長引かせることを**デフレスパイラル**とよぶ。

※賃金には下方硬直性があるので，人員整理などが行われやすい。

※デフレーションからは脱したが，インフレーションにはなっていない状態を，リフレーション〔リフレ〕とよぶ。

④スタグフレーション

景気後退下の物価上昇。スタグネーション〔景気停滞〕とインフレーション〔物価上昇〕の合成語。景気停滞期において消費的な財政支出が拡大することなどを原因に発生する。

※1970年代の石油危機後に，先進国で使用されるようになった用語。以後は「大きな政府」から「小さな政府」への転換を唱える論調が強くなった。

第６講　経済分野確認テスト

1　財・サービスの価格変動を示す指標である「物価指数」を何というか？

①実質成長率　②GDP デフレーター
③イノベーション　④グリーン GDP

2　急激な景気後退を何というか？

①インフレーション　②スタグフレーション
③デフレスパイラル　④恐慌

3　設備投資の変動により発生する，「主循環」ともよばれる約７～10 年周期の中期波動を何というか？

①キチンの波　②ジュグラーの波
③クズネッツの波　④コンドラチェフの波

4　財政政策と金融政策を合わせた景気対策を何というか？

①ポリシー＝ミックス　②デフレスパイラル
③マネーストック　④GDP デフレーター

5　多数の商品の価格を総合的・平均的に表したものを何というか？

①物価　②物価指数　③景気　④国富

6　次のうち，総需要が総供給を上回り発生し，需要側に原因がある現象とは？

①ディマンド＝プル＝インフレ　②コスト＝プッシュ＝インフレ
③構造的インフレ　④スタグフレーション

7　景気後退下の物価上昇を何というか？

①ハイパー＝インフレーション　②イノベーション
③スタグフレーション　④デフレスパイラル

8　７の状況は，資本主義の先進国で何年代以降にみられたか？

① 1920 年代　② 1940 年代　③ 1970 年代　④ 2000 年代

解答

1	②	2	④	3	②	4	①	5	①
6	①	7	③	8	③				